

フィロソフィック2・インベストメント・トラストー
ウイントン・パフォーマンス連動
ボンドプラスファンド15-10
(豪ドル建)

ケイマン諸島籍契約型外国投資信託／単位型

交付運用報告書

作成対象期間 第4期
(2018年12月1日～2019年11月30日)

その他の記載事項
運用報告書(全体版)は代行協会のウェブサイト(<http://www.sc.mufg.jp/>)の投資信託情報ページにて電磁的方法により提供しております。

ファンドの運用報告書(全体版)は受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社までお問い合わせください。

管理会社

IQ EQマネジメント・バミューダ・リミテッド

代行協会

**三菱UFJモルガン・スタンレー証券
株式会社**

受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

さて、フィロソフィック2・インベストメント・トラストーウイントン・パフォーマンス連動ボンドプラスファンド15-10(豪ドル建)(以下「ファンド」といいます。)は、このたび、第4期の決算を行いました。

ファンドの目的は、ファンド償還時における受益証券一口当たり純資産価格について、豪ドル建て募集価格の100%を確保することを目指しつつ、中長期的にキャピタル・ゲインを追求することです。当期につきましてもそれに沿った運用を行いました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。

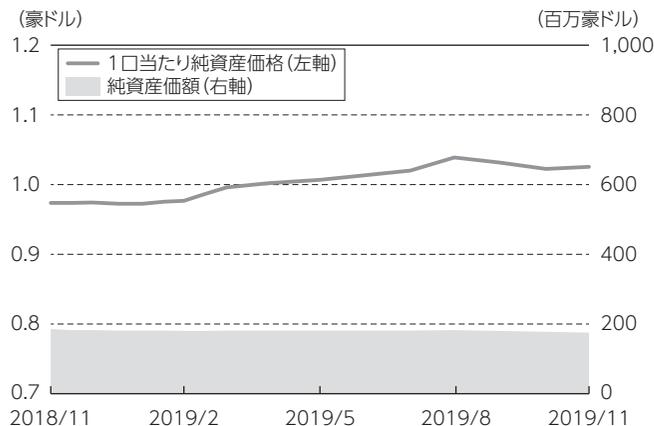
今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

第4期末	
1口当たり純資産価格	1.0254豪ドル
純資産価額	175,171千豪ドル
第4期	
騰落率	5.29%
1口当たり分配金合計額	該当事項はありません。

(注)1口当たり純資産価格および純資産価額は、ファンドの定められた存続期間全体にわたる受託報酬、監査費用およびその他の運用費用に対する準備金を含むものであり、これらの費用を発生時に費用計上しているファンドの財務書類の値とは異なる場合があります。また、騰落率は、上記の1口当たり純資産価格に基づき計算しています。以下同じです。

《運用経過》

【当期の1口当たり純資産価格等の推移について】



第3期末の1口当たり純資産価格	0.9739豪ドル
第4期末の1口当たり純資産価格	1.0254豪ドル
第4期中の1口当たり分配金合計額	該当事項はありません。
騰落率	5.29%

*ファンドは分配を行わない方針であるため、課税前分配金再投資換算1口当たり純資産価格を記載していません。以下同じです。

*ファンドの購入価格により課税条件は異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。

*ファンドにベンチマークは設定されていません。

■1口当たり純資産価格の主な変動要因

ファンドの投資対象である8年豪ドル建てゼロ・クーポン債(以下「ゼロ・クーポン債」といいます。)の価格は、前期末は額面の約87.3%で、当期末には額面の約95.5%となりました。また、同じくファンドの投資対象である8年豪ドルパフォーマンス・リンク債(以下「パフォーマンス・リンク債」といいます。)の価格は、前期末には名目元本の約10%でしたが、今期末には名目元本の約7%となりました。

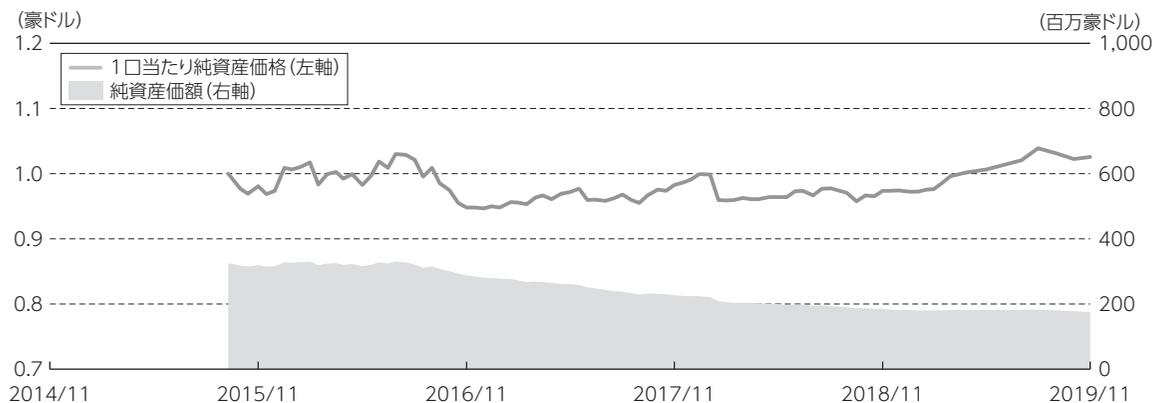
【費用の明細】

項 目	項目の概要	
管理報酬	報酬対象額(募集価格である1豪ドルに評価日時点の発行済受益証券口数を乗じた金額をいいます。以下同じです。)の1億豪ドルに相当する部分までについて年率0.30% 1億豪ドルを超える部分について年率0.10% (最低年間報酬20,000豪ドル)	管理報酬は、ファンドの資産の運用管理、受益証券の発行・買戻しの業務の対価として、管理会社に支払われます。
受託報酬	報酬対象額の年率0.12% (最低四半期報酬10,000豪ドル)	受託報酬は、ファンドの受託業務の対価として、受託会社および管理事務代行会社に支払われます。
保管報酬	報酬対象額の年率0.025%	保管報酬は、ファンドの資産の保管業務の対価として、受託会社および管理事務代行会社に支払われます。
投資顧問報酬	報酬対象額の年率0.25%	投資顧問報酬は、ファンドの投資顧問業務の対価として、投資顧問会社に支払われます。
代行協会員報酬	報酬対象額の年率0.10%	代行協会員報酬は、ファンドの受益証券の純資産価格の公表を行い、またファンドの受益証券に関する目論見書、決算報告書その他の書類を日本における販売会社に送付する等の業務の対価として、代行協会員に支払われます。
販売報酬	報酬対象額の年率0.40%	販売会社報酬は、投資者からの申込みまたは買戻請求を管理会社に取り次ぐ等の業務の対価として、日本における販売会社に支払われます。
その他の費用(当期)	0.28%	監査費用、買戻し手数料にかかる費用、弁護士費用、その他の運用費用等

(注1)各報酬については、有価証券報告書に定められている料率または金額を記しています。「その他の費用(当期)」には運用状況等により変動するものや実費となる費用が含まれます。便宜上、当期のその他の費用の金額をファンドの当期末の財務書類上の純資産価額で除して100を乗じた比率を表示していますが、実際の比率とは異なります。

(注2)各項目の費用は、ファンドが組み入れているゼロ・クーポン債およびパフォーマンス・リンク債の費用を含みません。

【最近5年間の1口当たり純資産価格等の推移について】



	運用開始日 (2015年10月9日) ^(注1)	第1期末 (2016年11月末日)	第2期末 (2017年11月末日)	第3期末 (2018年11月末日)	第4期末 (2019年11月末日)
1口当たり純資産価格 (豪ドル)	1.0000	0.9480	0.9827	0.9739	1.0254
1口当たり分配金合計額 (豪ドル)	該当事項はありません。				
騰落率 (%)	-	-5.20	3.66	-0.90	5.29
純資産価額 (千豪ドル)	325,260	288,130	227,064	185,783	175,171

(注1) ファンドは2015年10月9日に当初発行価格1豪ドルで設定されました。

(注2) ファンドにベンチマークおよび参考指数は設定されていません。

【投資環境について】

ファンドは、その資産の大半をゼロ・クーポン債およびパフォーマンス・リンク債に投資しています。

管理会社は、ファンドの設定日の後に算定される純資産額の一部をゼロ・クーポン債に投資することにより、最終買戻日まで受益証券を保有する受益者のために豪ドルによる元本確保の達成を目指します。

パフォーマンス・リンク債への投資により、MA WCM FPLリミテッド(以下「投資先ファンド」といいます。)のパフォーマンスに対する投資機会を提供します。

ウィントン・キャピタル・マネジメント・リミテッド(Winton Capital Management Limited) (以下「ウィントン社」といいます。)は投資先ファンドのトレーディング・アドバイザーを務めています。

以下の「マーケットレビュー」および「ザ・ウィントン・ファンドの実績」は、ウィントン社による運用状況に関する説明です。

(第4期:2018年12月1日~2019年11月30日)

マーケットレビュー

当期の株式市場は、12月に世界経済成長に対する懸念が再燃したことで大幅に下落して始まりしました。しかし、翌年1月以降は世界の株式市場も一転して上昇基調となり、11月には米国株式の代表的指数であるS&P500指数が初めて3,100を超えました。

債券市場は、12月の株式市場の急落や1月のFRBのハト派寄りの見通しに呼応して上昇トレンドが形成され、8月まで債券価格は堅調に推移しましたが、9月前半には史上最低水準を付けていたドイツ10年債利回りや米国30年債利回りが一転して急上昇し、多くの国債価格が軒並み下落すると、期末にかけては下落基調となりました。

エネルギー市場では、12月に株式市場で広がった悲観的な投資家心理が波及したことで、原油価格を筆頭に大幅に下落して始まりしました。1月に市場は上昇に転じ、揉み合いながらも6月にはWTI原油価格が1バレル当たり58ドルの水準まで回復しました。9月にサウジアラビアの石油施設が攻撃されたことを受けて一時的に急騰する局面があったものの、その後は方向感に欠ける相場となりました。

ザ・ウィントン・ファンドの実績

ザ・ウィントン・ファンド・リミテッド(The Winton Fund Limited) (以下「ザ・ウィントン・ファンド」といいます。)は、ウィントン・ファンド・マネジメント・リミテッド(Winton Fund Management Limited)が運用し、ウィントン社が投資アドバイザーを務める旗艦ファンドの名称です。

当期は債券市場や株式市場から纏まった収益を獲得したものの、エネルギー市場や貴金属市場で損失を計上し、若干のマイナス・パフォーマンスとなりました。最も収益貢献度の高かったセクターは債券セクターでした。次いで、現物株式セクター、通貨セクター、農産物セクターの順でザ・ウィントン・ファンドの収益に貢献しています。一方で、エネルギーセクターや貴金属セクター、畜産物セクターから損失を計上しています。

債券セクターでは、2018年12月から2020年8月にかけて形成された価格上昇トレンドから収益を獲得しました。また、通貨セクターでは、対米ドルで下落トレンドが見られたユーロが収益源となり、ザ・ウィントン・ファンドは当該セクターから収益を上げました。

一方で、エネルギーセクターでは2019年1月から6月にかけて揉み合いながらも上昇が続いた原油でショート・ポジションを取っていたことが損失要因となった他、貴金属セクターでも金・銀のショート・ポジションを中心に損失を計上しました。

なお、記載されている運用体制はザ・ウィントン・ファンドのものであり、投資先ファンドの運用体制と必ずしも同じではありません。ザ・ウィントン・ファンドと投資先ファンドの証拠金に使用されていない預かり資産の運用方法は必ずしも同じではありません。

※ザ・ウィントン・ファンドのパフォーマンスについて

ウィントン社からは、報告期間に対応するパフォーマンスが提供されていません。ウィントン社から提供された月次のパフォーマンス数値から、2018年12月から2019年11月までの期間について管理会社が計算したところによると、当該期間についてのザ・ウィントン・ファンドのトランシェB(米ドル建て)のパフォーマンスは-0.04%でした。

【ポートフォリオについて】

投資先ファンドへの連動率は、前期末は26%でしたが、今期末には15.2%となりました。

受益証券1口当たり純資産価格は、前期末には0.9739豪ドルで、2019年4月26日に1豪ドルを超え、今期末には1.0254豪ドルとなりました。

【分配金について】

該当事項はありません。

《今後の運用方針》

ファンドは、今後も、ファンド償還時における受益証券1口当たり純資産価格について、豪ドル建て募集価格の100%を確保することを目指しつつ、中長期的にキャピタル・ゲインを追求するという投資目的に沿い、ゼロ・クーポン債とパフォーマンス・リンク債への投資を継続します。

《お知らせ》

該当事項はありません。

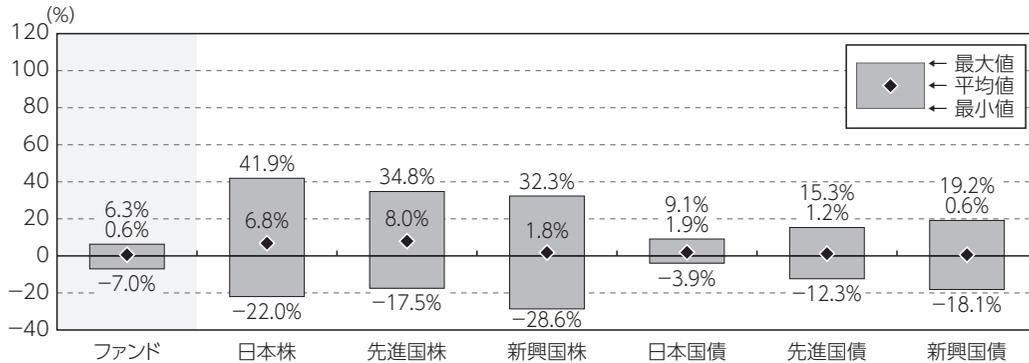
《ファンドの概要》

ファンド形態	ケイマン諸島籍契約型外国投資信託
信託期間	ファンドは、2015年10月9日に運用を開始し、原則として2023年10月13日に終了します。ただし、有価証券報告書に定めるいずれかの方法により早期に償還されることがあります。
運用方針	ファンドの目的は、ファンド償還時における受益証券一口当たり純資産価格について、豪ドル建て募集価格の100%を確保することを目指しつつ、中長期的にキャピタル・ゲインを追求することです。
主要投資対象	特別目的ヴィークルであるシグナム・モメンタム・リミテッド(Signum Momentum Limited)により発行されるゼロ・クーポン債および特別目的会社であるクォーティックス・フィナンシャル・プロダクツIIリミテッド(Quartix Financial Products II Limited)により発行されるパフォーマンス・リンク債。
ファンドの運用方法	管理会社は、受益証券の発行手取金(からファンドの設立および受益証券の募集に関連する費用ならびにファンドの資産から支払われるその他の手数料および費用のための準備金を控除した金額)の全額を、ゼロ・クーポン債およびパフォーマンス・リンク債に投資することにより、投資目的の達成を目指します。
主な投資制限	<p>管理会社は、当ファンドのために主に以下の投資制限に従います。</p> <ul style="list-style-type: none"> (i) 管理会社または管理会社の取締役を相手方当事者として取引することができません。 (ii) 管理会社または当ファンド以外のいずれかの者に利益をもたらすことを意図された取引を行いません。 (iii) 管理会社が、管理会社または当ファンドの受益者以外の第三者の利益を図る目的で行う取引等、当ファンドの受益者の保護に欠け、または当ファンドの資産の運用の適正を害する取引は禁止されています。 (iv) 空売りされる有価証券の時価総額は、いつでも、当ファンドの直近の純資産価額を超えてはなりません。 (v) デリバティブ取引等の投資指図は行いません。 <p>管理会社は、とりわけ、当ファンドの投資対象の価格の変化、再建もしくは合併、当ファンドの資産からの支払または受益証券の買戻しの結果、上記取引制限に違反しても、直ちに投資対象を売却する必要はありません。しかし、管理会社は、違反が発見された後合理的な期間内に、受益者の利益を考慮しつつ、上記制限を遵守するために合理的で実施可能な手続を取ります。</p>
分配方針	ファンドは、受益者への分配を行わない方針です。

(参考情報)

● ファンドと代表的な資産クラスとの年間騰落率の比較

このグラフは、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したもので、2015年4月から2020年3月の5年間(ただし、ファンドについては2015年10月9日に運用を開始したため、2016年10月から2020年3月)における年間騰落率(各月末時点)の平均と振幅を、ファンドと代表的な資産クラスとの間で比較したものです。



出所：管理会社、Bloomberg L.P.および指数提供会社のデータを基に森・濱田松本法律事務所が作成

※ファンドの年間騰落率(各月末時点)は、各月末とその1年前における課税前分配金再投資換算1口当たり純資産価格を対比して、その騰落率を算出したものです。ただし、ファンドは分配を行わないため、分配金再投資1口当たり純資産価格の値は1口当たり純資産価格の値と同じです。また、設定から1年未満の時点では算出されません。

※代表的な資産クラスの年間騰落率(各月末時点)は、各月末とその1年前における下記の指数の値を対比して、その騰落率を算出したものです。

※ファンドと代表的な資産クラスとの年間騰落率の比較は、上記の5年間の各月末時点における年間騰落率を用いて、それらの平均・最大・最小をグラフにして比較したものです。

※ファンドの年間騰落率は、豪ドル建てで計算されており、円貨に換算されておりません。したがって、円貨に換算した場合、上記とは異なる騰落率となります。

※ファンドは代表的な資産クラスの全てに投資するものではありません。

*各資産クラスの指数

日本株・・・TOPIX(配当込み)

先進国株・・・FTSE先進国株価指数(除く日本、円ベース)

新興国株・・・S&P新興国総合指数

日本国債・・・BBGバークレイズE1年超日本国債指数

先進国債・・・FTSE世界国債指数(除く日本、円ベース)

新興国債・・・FTSE新興国市場国債指数(円ベース)

(注)S&P新興国総合指数は、Bloomberg L.P.で円換算しています。

TOPIX(東証株価指数)は、株式会社東京証券取引所(株東京証券取引所)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利は、株東京証券取引所が有しています。なお、ファンドは、株東京証券取引所により提供、保証または販売されるものではなく、株東京証券取引所は、ファンドの発行または売買に起因するいかなる損害に対しても、責任を有しません。

FTSE先進国株価指数(除く日本、円ベース)、FTSE世界国債指数(除く日本、円ベース)およびFTSE新興国市場国債指数(円ベース)に関するすべての権利は、London Stock Exchange Group plcまたはそのいずれかのグループ企業に帰属します。各指数は、FTSE International Limited、FTSE Fixed Income LLCまたはそれらの関連会社等によって計算されています。London Stock Exchange Group plcおよびそのグループ企業は、指数の使用、依存または誤謬から生じるいかなる負債について、何人に対しても一切の責任を負いません。

《ファンドデータ》

【ファンドの組入資産の内容】

(第4期末現在)

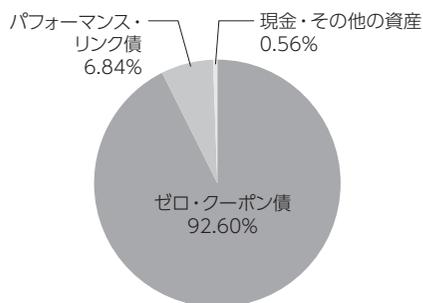
● 組入上位資産

(組入銘柄数: 2銘柄)

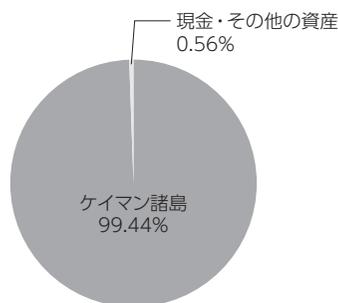
	組入比率 (%)
Signum Momentum Ltd 09/29/2023	92.60
Quartix Financial Products II Ltd 09/29/2023	6.84

(注) 組入比率は純資産価額に対する各組入資産の評価額の割合です。以下円グラフも同様です。

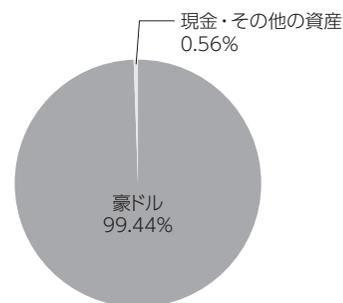
● 資産別配分



● 国別配分



● 通貨別配分



(注1) 上記円グラフには、四捨五入した比率を記載しているため、全資産の比率の合計が100.00%にならない場合があります。

(注2) 組入全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載されています。

【純資産等】

項目	第4期末
純資産価額	175,170,936豪ドル
発行済口数	170,820,000口
1口当たり純資産価格	1.0254豪ドル

第4期		
販売口数	買戻口数	発行済口数
0 (0)	19,930,000 (19,930,000)	170,820,000 (170,820,000)

(注) () の数は本邦内における販売・買戻しおよび発行済口数です。